

電子ジャーナル時代における蔵書構成評価の試み

—順天堂大学学術メディアセンターにおける契約タイトルの計量的分析—

城山泰彦 (KIYAMA Yasuhiko)
順天堂大学学術メディアセンター

I. 背景と目的

学術雑誌のコレクションは電子ジャーナルの普及により、冊子体の時代とは比較にならないほど、多くのタイトルが閲覧可能になった。冊子体と同様の個別タイトルによる契約に加えて、出版社等の括りによるパッケージ契約(pac)や文献データベース(DB)等があり、さらに契約不要な Open Access (OA) Journal が存在する。順天堂大学学術メディアセンター（以下、当センター）の欧文医学誌は全て電子ジャーナルによる契約であるが、購読費用は高騰し続けており、多様な購読モデルから最適な契約を選択することに苦慮している。本調査では前回の OA を調査した結果をふまえて、当センターが契約する電子ジャーナルを対象に、閲覧可能なタイトルの傾向や各学問分野の充足度などを計量的に分析した。

II. 調査項目と調査方法

本調査では、一定の水準を満たした学術雑誌のリストとして、Journal Citation Reports, Science Citation Index Expanded, 2012 年版を採用した。176 の学問分野のうち、医学に関連する 57 分野（基礎医学・臨床医学・総合科学・心理学）の掲載誌を対象に、当センターの閲覧状況を確認した。当センターで閲覧可能なタイトルリストを採取し（2015 年 1 月 29 日時点の 46,676 タイトル）、各タイトルを個別契約、DB、pac、即時 OA、公開遅れで閲覧可、に分類して分析した。

III. 結果と考察

医学全体で最新号が閲覧可能なタイトルは、個別契約 6.1%・DB 15.4%・pac 24.2%・即時 OA 17.9% の合計 63.6% となった。他に公開遅れで閲覧可 8.8%，閲覧不可 27.6% であった。最新号が閲覧可能な割合は学問分野による差が大きく、少ない順に男性病学 33.3%・毒物学 38.8%・歯科口腔外科学 39.8%，多い順にリウマチ学 86.2%・神経画像 85.7%・法医学 81.3% となった。結果から、本学に必要なタイトルは概ね契約できているものの、DB と pac の掲載状況や OA による影響が強く、必ずしも本学のニーズに見合った数値であると感じられなかった。分析結果をふまえて、当センターが契約するタイトルの現状を把握し、最適な契約に近づけるよう検討を進めていきたい。

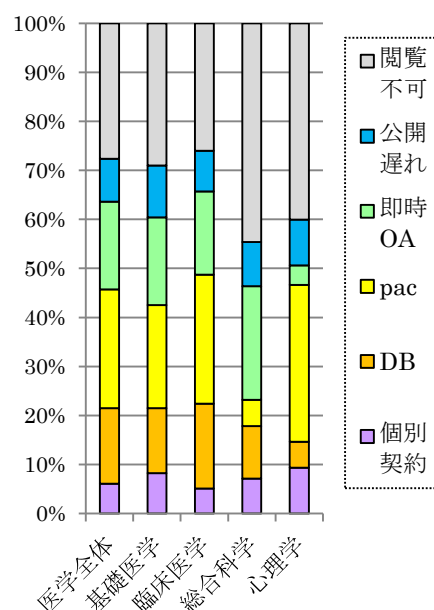


図. 分野による契約形態